



さとう しゅういち  
佐藤 秀一教授

日本歯周病学会常任理事、日本歯周病学会専門医指導医・専門医  
1988年日本大学歯学部卒業、2015年日本大学教授(歯学部保存学教室歯周病学講座)、2023年日本大学歯学部付属歯科病院長。

# 歯周外科治療(総論)

歯周病予防のため、6か月に一度は歯科医院でクリーニングをしましょう。

歯周病は全身の病気と深い関わりがあるといわれています。日本歯周病学会にご協力をいただき、歯周病についてのお話をうかがいます。

第23回は「歯周外科治療(総論)」です。

## はじめに

歯周病の治療では、歯周基本治療という口腔清掃指導や歯石除去など口の中の清掃をはじめに行います。しかし、重症な歯周病では歯周基本治療だけでは歯周病は改善しません。そこで、歯肉の手術(歯周外科治療)を行うことがあります。

歯周外科治療の最終的な目的は歯周病によって破壊された歯周組織を元の状態に戻すことです。しかし、すべての症例で破壊された歯周組織を元の状態に戻すことは困難です。そのため、いくつかの歯周外科治療を症例に応じて使い分ける必要があります。

## 歯周外科治療の種類

現在、歯周外科治療は目的に応じて(1)切除療法、(2)組織付着療法、(3)歯周組織再生療法、(4)歯周形成手術の4つの方法があります。

### (1) 切除療法

歯周ポケットを形成している歯肉を手術によって切除し、歯周ポケットを浅くする手術です。

### (2) 組織付着療法

歯肉切除術、歯肉弁根尖側移動術があります。術後の歯肉が下がりやすい欠点があります。

図1 歯肉剥離掻爬術(フラップ手術)



歯周ポケット内に残っている歯周病の原因菌をできる限り除去し、歯肉を収縮させ、歯周ポケットを浅くする手術です。ポケット掻爬術、新付着術(ENAP)や歯肉剥離掻爬術(フラップ手術)(図1)があります。フラップ手術は歯周組織再生療法を行う際の基本的な手術法として広く用いられます。術後の歯肉は下がりにくく、厳密な口腔管理によっ

### (3) 歯周組織再生療法

て長期間の良好な状態の維持が期待できます。

歯周病によって破壊された歯周組織を元の状態に戻す、再生を目的とした最新の手術法です。歯周組織再生療法には、歯周組織再生誘導法(GTR法)、エナメルマトリックスタンパク質(エムドゲイン®)を応用した方法、線維芽細胞増殖因子(リグロス®)を応用した方法(図2)と骨移植術があります。

GTR法は遮断膜を用いて、歯周組織を再生

### (4) 歯周形成手術

歯周病によってできた歯肉の隙間や下がった歯肉の審美回復や口の中に歯ブラシが入れにくい部位の環境改善などを目的とする手術法です。歯肉移植術、有茎弁歯肉移動術や歯槽堤増生術などがあります。

最近では、患者の審美的要求や歯周治療に対する関心の高さから、行う機会が増えてきている手術法です。

## まとめ

歯周外科治療の理想的な治癒は、失われた歯周組織を完全に元に戻すよう再生させることです。しかし、現在の治療法ではすべての症例で再生させることは困難です。したがって、患者さんと十分なインフォームドコンセントを取り、それぞれの症例に応じた最も効果的な治療が望める手術法を選択することが重要です。



今回は「再生療法」です。

図2 線維芽細胞増殖因子(リグロス®)を応用した方法

